

平成**28**年度 文化庁日本語教育大会  
日本語教育新時代！  
「これからの日本語教育の人材像を考える」

パネルディスカッション  
これからの日本語教育における人材像  
～養成の現場と活躍の場が考える専門性から～

「日本語学校の求める人材像」

**2017年9月30日(土) 15:20-17:00**

学校法人 大阪**YMCA**留学生事業部

日本語プログラム教務主任 亀田美保

# 日本語学校の今

## ❖ 日本語学校とは・・・

主に日本語を母語としない者を対象として、第二言語・外国語としての日本語教育を実施する機関。日本国内外に存在している。日本国内では、法務省より告示を受けた日本国内における日本語教育機関を特にさし、入学者には在留資格「留学」が認められる。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E5%AD%A6%E6%A0%>  
[ウィキペディア:日本語学校]

- **法務省告示機関 403**[平成28年11月現在・文化庁]  
(前年度**314**、**28.3%**増)  
法務省告示機関の日本語学習者数 **86,950**人 全体の**39.9%**[同上]  
(前年度**71,231**人、**22.1%**増)
- 日本語学校は**国際社会と日本社会をつなぐ窓口**であり、日本社会においては**進学先、職場、地域コミュニティーに人材を輩出する社会的役割**を担っている。

# 日本語学校の特徴

## 《留学生対象コースの場合》

- **学習期間、時間数の長さ**

(法務省「日本語教育機関の告示基準」より)

修業期間1年以上、1年当たりの授業時数760単位時間以上

1週間当たりの授業時数20単位時間以上、1単位時間45分以上

- **学習目的の多様性**

高等教育機関への進学、ビジネス、語学研修、ワーキングホリデー、  
生活、旅行、趣味など

- **指導内容の広範さ**

日本語指導、学習指導、生活指導、進路指導、異文化理解・交流など

## 大阪YMCAにおける教育の目標領域に関する指導

目標領域	指導内容	構成要素
日本語	言語知識 言語技能 コミュニケーション能力  使用領域別技能	語彙,文法,漢字など 読む,書く,聞く,話す 文法能力,社会言語能力,談話能力,方略的能力 アカデミックジャパニーズ, ビジネスジャパニーズ
学習	自律学習支援 アカデミックアドバイジング	学習管理,学習ストラテジー
生活	生活支援 セルフマネージメント	カウンセリング,コーチング アドバイジング
進路	キャリア教育 21世紀型スキル	進路情報提供,就職活動支援など
文化	異文化間コミュニケーション 異文化理解	ソーシャルスキルなど 自・他の文化

# 大阪YMCAにおける教員採用試験と採用のポイント

採用条件：法務省告示基準に準拠

採用試験：【第一次審査】

書類(学力、説得力のある志望理由)

【第二次審査】 筆記試験(日本語力)、

模擬授業(教授力)、面接(コミュニケーション力)

採用のポイント：**一芸に秀でた人**

教授経験、日本語専攻、外国語、海外経験、

職業経験、趣味など

# 日本語学校における教師の主な役割

## 初任者: 教室活動

教案作成、教材準備、授業実施、内省、添削、成績など

## 中堅者: コース開発・運営・評価、テスト・教材開発、学生指導

コースデザイン(カリキュラム・シラバス・教材・評価)

スケジュール管理、教員間連携、新任教員支援、

教材・テスト作成、学期末成績、出欠管理、進路相談、

生活指導など

## ベテラン: プログラム開発・運営・評価、教員育成、研究・開発

学科／プログラム評価、在籍生管理、教職員採用・管理、

教職員研修、学生募集、進路確保、関係機関・団体との

連携、施設管理、広報、経営管理など

# 大阪YMCAの教員育成システム

## 〈定期評価〉

着任後3年間の授業見学評価、自己評価(教員全員)、学生評価、  
コンサルティング(年1回)

## 〈研修〉

- On the Job Training(「日本語学校」におけるキャリア・パス)  
教室<クラス<コース<プログラム・学科<学校
- 新任教員研修(着任前2時間/週×4回含め、6か月間の教案指導)
- 「授業の工夫」(年1回) 実践共有
- 「日本語教育関連トピック講習会」(年1回) 周辺領域の知識
- 専任教員向けワークショップ(年1回) 学校運営への参画
- 教材開発プロジェクト(随時必要に応じて)
- その他、勉強会(随時必要に応じて)



# これからの日本語教育における人材像

## 専門人材としての日本語指導者育成

### 3領域5区分(特に「言語」「言語と教育」)



これら知識・技能・態度を日々更新！

#### 【提言】

1. 養成機関との連携  
→ 交流の機会、実習・インターンシップの受け入れ
2. 日本語学校の環境整備  
→ 自己点検・自己評価
3. 教員の待遇改善  
→ 資格認定制度の導入、養成・研修への助成制度